ニューズレター

第５回アジア太平洋管理会計フォーラム記

アジア太平洋管理会計学会

第５回アジア太平洋管理会計フォーラムは、10月31日から11月２日まで別府大学国際経営学部で開催された。９カ国から50名以上が参加し、「世界的な金融危機における経営と会計の諸問題」（メインテーマ）について議論した。特別講演では日本の自動車産業の現状と問題点、更には今後の方向について報告を受け、討議を行った。ダイハツ九州株式会社東迫会長の講演を受け、工場見学を行うことができたことは参加者にとって非常に有意義なものであった。また、二日目の特別講演では、「管理会計の現状と今後の課題」ついて報告が行われ、全体として非常に密度の高い国際会議となった。

このフォーラムに関連して、マレーシア・マラ工科大学のウー准教授とスウェーデン・ベクショー大学、ヤン・アルペンベルク教授が大会記を寄せているので紹介しておきたい。

（別府大学国際経営学部教授　西村　明記・訳）

第５回アジア太平洋管理会計学会フォーラム：別府での経験

ウー・スウ・フイ

日本と言えば、すぐさま能率というイメージが想起され、管理会計の教員としてジャスト・イン・タイム，カンバン、カイゼンやその他の日本の管理会計技法がおのずから私の心を横切るのである。2009年10月31日から11月２日まで九州の別府大学で第５回アジア太平洋管理会計学会フォーラムが開催されるのであるが、そのフォーラムに私は何を期待するのであろうか。今回、私の日本への訪問は始めてのものである。

日本語が堪能でないで、私は日本語辞典と旅行案内書を、それらが私を目的地に連れて行ってくれるであろうと期待して、スーツケースに詰め込んだ。“有難う”は亡父が私の記憶にしっかりと刻み込んだただ一つの言葉である。父は、現在のマレーシアであるが、日本のマラヤにおける占領期に習った幾つかの日本語を私たちに教えてくれた。

私はこの唯一の言葉を携えて、福岡国際空港に到着後目的地の別府大学に無事着くであろうか。アジア太平洋管理会計学会会長西村明教授は福岡国際空港から高速バスに乗ること、そしてその旅程が約２時間かかることを教えてくれた。バスを待っている時に停留所の職員はバスが予定より６分遅れて発車することを乗客に告げた。発車の定刻よりも６分遅れが乗客に引き続き知らされた。私は６分以上待つことにはこれまで慣れていた。マレーシアでは、ある時には飛行機が７時間近くも遅れ、飛行機が離陸する時まで暗闇のなかに閉じ込められていた。

ジャスト・イン・タイムはまさに管理会計の重要な一部であるように、日本人のライフサイクルであり、文化でもあることに気づいた。フォーラムでも個々のセッションにおいて、日本の司会者は、ベルでもって‘あと５分です’と報告者と参加者に告げている。これは新たな経験である！時間が重きを成しているし、１秒さえも価値を持っている。公共輸送の主要業績評価指標（KPI）は適時性によって測定されている。フォーラムにおいてすべてのセッションは時間通りに進行している。私は、私に割り当てられた時間よりもかなり前に報告を終えた時、「さてどうしましょうか」というように、司会者を当惑させた。私は、「質問と回答のセッション」と返答した。さて、私の主要業績評価指標を私は達成したのであろうか。イエスかノーか。私は、新しいシステム、つまり“時刻前に”（Ahead to Time）を生み出したことを知った。

第５回アジア太平洋管理会計学会フォーラムは誠にうまく組織されていて、この学会の影響がどれほど広く行渡っているかを知り、驚かされた。参加者はスウェーデン、デンマーク、カナダ、ニュージーランド、アメリカ、台湾、中国、もちろんマレーシアからはるばるやって来たのである。フォーラムの中での観察そして参加者との相互接触を通して、日本の学術界ではよき弟子への指導が熱く実践されていることに

気づいたのである。私が日本の大学院生に出くわした時、彼らは、誰それ教授の学生であるとして自己紹介をするのである。あるセッションで大学院生がプレゼンテーションの後に幾つかの難しい質問に行き詰った時、彼の教授は立ち上がり、彼に代わって回答したのである。これはまさしくよき指導の実践である。

私の見たところ、この良き指導振りの関係は共同関係に発展していっている。フォーラムではまた幾人かの教授の元学生であった教授も参加しており、彼らの間には尊敬と交流がなお存在していた。日本の教授たちの世界は、強い確立したネットワークと共に、素晴らしく、緊密に結びついた社会なのである。

日本人の報告論文は抽象的で、哲学的な思考を強めるというよりも問題への解決策を探るような、実践的で実務的である。特に日本の各地から参加した日本人の報告者による報告論文の多くは素晴らしいものであった。アジア太平洋管理会計学会と共同して刊行されているアジア太平洋管理会計誌（APMAJ）は国際的な査読付きの雑誌であり、これらの論文の多くがこの雑誌の査読を受けえるであろうと私は確信している。第６回アジア太平洋管理会計学会フォーラムは2010年に台湾で開催される予定である。有難う御座いました。

（ウー・スウ・フイ（Wee Shu Hui）アジア太平洋管理会計誌のアドミニストレーターである。）

第５回アジア太平洋管理会計学会印象記

ヤン・アルペンベルグ

別府におけるアジア太平洋管理会計学会の会議は研究者としての私には、真に価値があり、有益であった。まず、様々なアジアの大学から参加した教授たちと多くの素晴らしい交流をなすことができた。第２に、会議で報告された研究は一般的に非常に高い水準にあり、私は特に（今回におけるように）報告者たちの様々な方法論の結合、また研究者間で励ましあう雰囲気が好きである。第３に、西村教授の指導の下での会議の組織的な委員会は、すべてのものに行き届いた世話を、そしてすべて会議の事柄が順調に進行していると感じさせたのである。第４に、会議後のダイハツへの工場見学は多くの知見を与え、全体の会議に価値を付け加えた。私は、来年台湾で開催される会議を待ち望んでいるし、そこで皆さんと会えることを楽しみにしている。

（Jam Alpenberg；Växjö University, Sweden）

『農業経営』と地域連携の構築

中川隆

2010年５月７日、『農業経営』の受講生約30名を連れて、日田天領水の里とサッポロビール九州日田工場を訪れました（写真１）。今回の学外研修は、昨年設立されたばかりの大型農産物直売所の経営の実態と課題、ビール工場の実態と地域活性化の取り組みについて、現場から学ぶ目的で、実施しました。学生の皆さんにとっては、直売所に併設されたレストランでの昼食がとりわけ好評だったようですが、研修終了後には、しっかりレポートを書いてもらいました。「直売所のエコ活動が印象的だった」とか「日本のビール工場の生産工程のあり方は、中国帰国後に大変参考になる」とか、なかなか読み応えのあるレポートが多く、学外研修の大切さをあらためて感じたものでした。

また、５月28日には、公開授業を実施しました（写真２）。講師としてお招きしたのは、「さむらい」店長の清松庄之介氏です。別府大学の学生や教職員が最もお世話になっている居酒屋の店長に、『食と農』のテーマを中心に御講演をお願いしました。食農問題だけでなく、語学に関すること、学生へのアドバイスなど、実に幅広いお話を頂きました。学生の皆さんにとって、刺激的な90分間だったのではないか、と思います。

今後とも、別府大学国際経営学部では、講義を通じて、あるときは現場を訪れることで、あるときは現場の担当者を招くことで、大分県内あるいは別府市内の地域との連携の構築・深化に積極的に努めていきたいと思っています。

（別府大学国際経営学部　中川隆）

写真１
サッポロビール九州日田工場を見学
（2010年５月）

写真２
公開授業を実施
（2010年５月）